



index

- ・【環境部】有機フッ素化合物の環境実態解明に関する研究 P 1
- ・【保健衛生部】福井県の感染症発生動向調査(2011年) P 2
- ・【健康長寿推進室】1日1万歩で健康増進 P 3
- ・【トピックス】センター研修会；福井県から見る地球温暖化 P 4

河川のサンプリング



分析装置(LC/MS/MS)

環境部

有機フッ素化合物の環境実態解明に関する研究

有機フッ素化合物である PFOS(ペルフルオロオクタンスルホン酸)・PFOA(ペルフルオロオクタン酸)はテフロン加工・撥水加工・防汚加工など、身の回りの日常製品に使用されています。これらの物質はとても分解されにくく、環境への残留性や生物への蓄積性、有害性などが指摘されています。

当センターでは、PFOS・PFOA およびその類縁化合物について、LC/MS/MS(液体クロマトグラフィー質量分析装置)を用いた分析方法を検討し、環境中の実態を解明するための研究を実施しています。

(用途)



レインコート等の
撥水加工



フライパン等の
テフロン加工



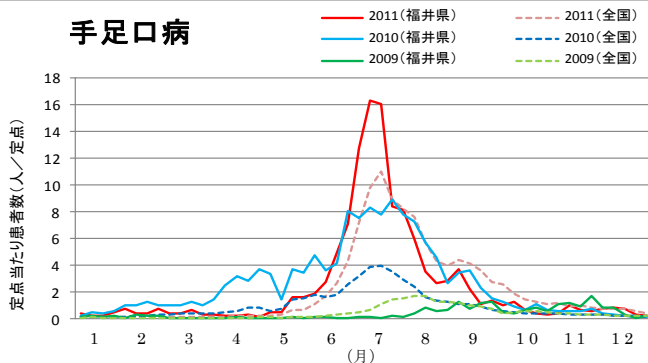
家具等の
防汚加工

福井県の感染症発生動向調査(2011年)

感染症発生動向調査とは

感染症発生動向調査は、1999年4月1日に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて実施されている調査です。これは、感染症の発生状況を継続して把握、分析し、その結果を国民や医療関係者へ提供することにより、感染症の予防およびまん延防止を図ることを目的としています。対象となる感染症が発生した場合には、医療機関から最寄りの健康福祉センター（保健所）に届出が提出されます。当センターでは、健康福祉センターから報告されるデータを、週毎・月毎に集計・解析して調査速報を作成し、原則として毎週水曜日にホームページ（<http://kansen.erc.pref.fukui.jp/>）に掲載しています。ここでは、2011年に県内で流行のあった下記の3疾患の状況を紹介します。グラフは、定点医療機関当たりの患者数の週ごとの変化を表したものです。

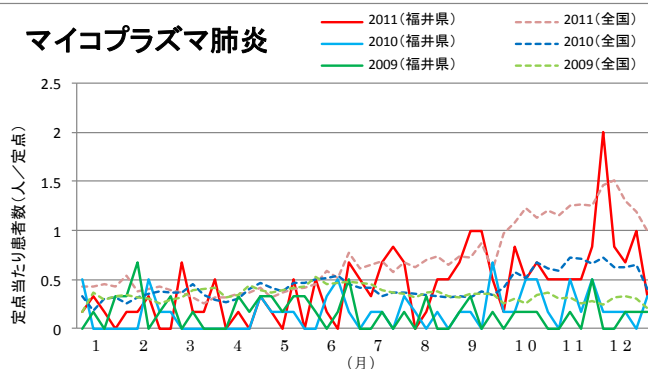
手足口病



手足口病

手足口病の主な原因はエンテロ系ウイルスの感染です。口腔粘膜および四肢末端に水疱性の発疹が現われる急性疾患で、幼児を中心に流行します。発疹は、手足全体、肘、膝あるいは臀部周辺にもみられる場合や、手足口の一部にしか見られない場合もあります。2010年はエンテロウイルス71型、2011年はA群コクサッキーウイルス6型が主因となり、いずれも6～7月に全国的に流行が見られました。

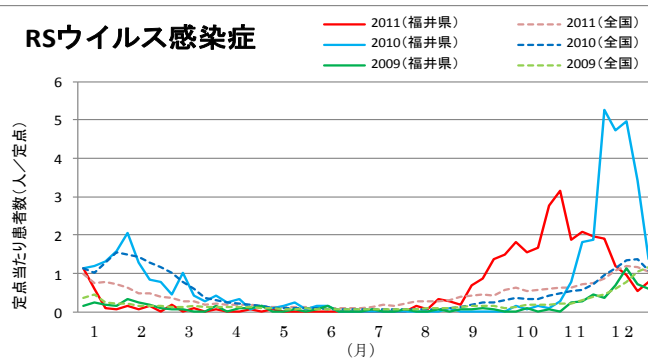
マイコプラズマ肺炎



マイコプラズマ肺炎

肺炎マイコプラズマが病原体で、主に患者との濃厚接触者が飛沫感染や接触感染により、発熱、咳や喘息を発症する急性疾患です。定点当たり1名以上の患者発生は非常に稀でしたが、2011年は10月以降全国的に流行が見られ、福井県においても、一時は定点当たり2名の患者発生がありました。かつては4年周期（偶然にもオリンピック開催年）で流行を繰り返しており、増加傾向にある今年は注意が必要です。

RSウイルス感染症



RSウイルス感染症

RSウイルスの感染によって発症する、乳幼児に多い急性呼吸器感染症です。風邪のような症状で、通常は1～2週で軽快しますが、1歳未満、特に6ヶ月以内の乳児ではしばしば気管支炎や肺炎などを起こして重症になることがあります。11月から1月に流行の多い疾患ですが、2011年はそれよりも早い10月頃に流行のピークがありました。2010年から患者報告数が増加しており、今年も流行が予想されます。

まとめ

インフルエンザウイルスやノロウイルスなどによる代表的なウイルス感染症は冬場に多いですが、上記の手足口病のように暖かい時期であっても流行する感染症もあります。常に手洗いやうがいを忘れずに実施することが感染拡大の防止のために重要です。また、風邪のような症状であっても重症化する恐れのあるマイコプラズマ肺炎やRSウイルス感染症が増えていますので、咳が出る患者さんはマスクを装着するなど感染拡大防止に努めてください。

当センターでは、今回紹介した疾患の他にも、90疾患以上についてデータを集計・解析しています。各疾患の流行状況をいち早く県民の皆様にお知らせできるよう、職員一同頑張っています。（文責：小和田和誠）

1日1万歩で健康増進

○環境保健に関する研究会を開催

昨秋、当室が事務局となり、「地方衛生研究所全国協議会 東海・北陸支部 環境保健部会」を福井市のアオッサで開催しました。

部会では、東海・北陸地域の地方衛生研究所職員が、日ごろから取り組んでいる調査研究について報告し、当県からは、次の3課題について報告しました。

- ◇「福井県における花粉飛散状況について」
- ◇「福井県のがん罹患の動向―地域がん登録からみた検診対象がんの福井県と全国の比較―」
- ◇「お笑いのビデオによるストレス軽減効果の検証」

また、特別講師として、福井大学医学部 国際社会医学講座 環境保健学領域の平井一芳（ひらい たかよし）先生をお迎えし、「健康増進・管理 ～身体活動からのアプローチ～」というテーマで講演をしていただきました。この講演では、日本の健康政策や日常の運動が健康増進にもたらす効果について、実践データをまじえながら解説していただきました。以下にその一部を紹介します。

■日常生活における歩数が減少しています

国では平成12年から健康づくり政策「健康日本21」を推進するとともに、平成17年からは「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、最後にクスリ」をキャッチフレーズに、生活習慣病予防を呼びかけています。

「健康日本21」では、「日常生活における歩数の増加」を目標のひとつとして掲げていますが、最終評価（平成23年）では、逆に歩数が減少しており、国民の運動不足がうかがえます。



■エクササイズガイド 2006

運動不足を解消するための実践マニュアルとして「健康づくりのための運動指針（エクササイズガイド）2006」が作成されています。

同ガイドでは、健康づくりのための身体活動量の目標として、「週23エクササイズの活発な身体活動（運動・生活活動）、そのうち4エクササイズの活発な運動」を掲げています。

ここで、1エクササイズ¹⁾は、歩行20分に相当（右図参照）しますので、週23エクササイズは毎日約60分の歩行（毎日約1万歩）に相当します。

1) エクササイズ：メッツ(運動強度)×時間(h)

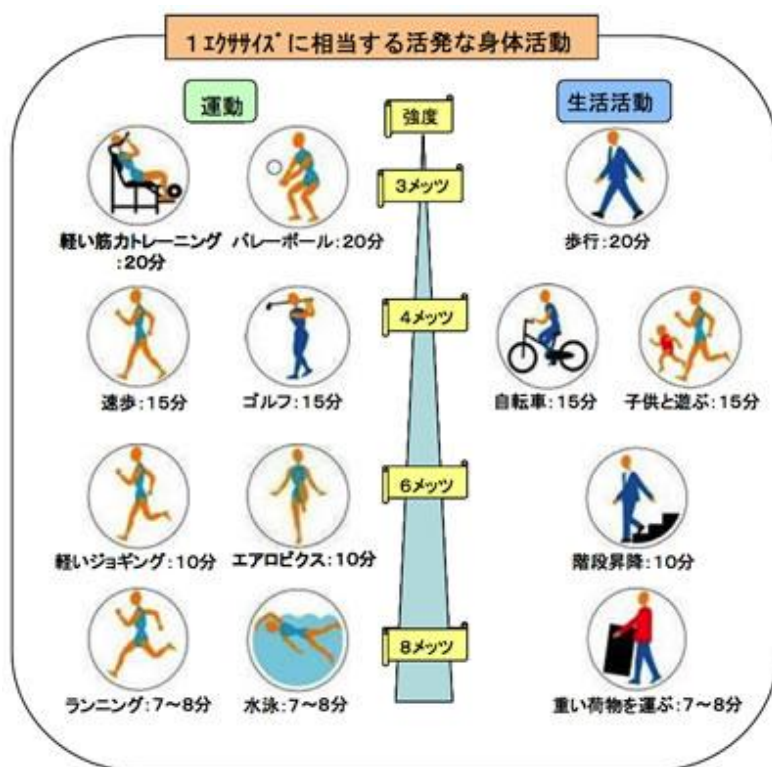
■知識を行動変容につなげる

「ウォーキングは健康にいい」

⇒「通勤では車をやめ、歩くことにした」

⇒「1日1万歩を習慣化」

こうなれば、「継続は力なり」で必ず効果が表れます。レッツ・ウォーク！



「健康づくりのための運動指針2006」から引用

「衛生環境研究センター研修会」開催（3月）

今年度、北陸3県や神奈川県で重い健康被害が発生し、全国的に大きなニュースとなった、焼肉チェーン店における腸管出血性大腸菌食中毒をテーマに衛生環境研究センター研修会を開催しました。

研修会では、富山県衛生研究所において調査・解析の第一線で活躍されている綿引先生（医学博士）をお招きし、疫学・細菌学的解析状況などについて詳しく解説していただきました。

そのあと、当センター所員が本県における腸管出血性大腸菌検査状況について報告し、講師の先生からコメントをいただくなどして、今回の食中毒に対する理解を深めました。

参加者から活発な質問もあり、問題となった食中毒への関心の高さが感じられた研修となりました。



福井県から見る地球温暖化

平成24年3月に、「福井県から見る地球温暖化」調査研究報告書を発行しました。

本報告書では、当センターの大気・水質のデータや県・市の関係機関、福井地方气象台等から収集した地球温暖化に関連するデータを解析し、福井県における気候、生物季節活動、水環境、農業・漁業、健康、自然災害の分野での地球温暖化の現象をわかりやすく見える化しています。

なお、報告書は福井県衛生環境研究センターホームページからダウンロードできます。

(<http://www.erc.pref.fukui.jp/center/ondanka/H23houkoku/>)



当センターでは、下記ホームページにて調査研究内容や所報などの刊行物を公表しています。
また、見学や研修、出前講座などのご要望がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。

編集発行 福井県衛生環境研究センター 〒910-8551 福井市原目町 39-4
電話：(0776)54-5630 FAX：(0776)54-6739 E-mail：eiken@pref.fukui.lg.jp
ホームページ <http://www.erc.pref.fukui.jp/center/>
みなさんのご意見、ご質問をお待ちしています。 (12.03.16170)

編集後記
大震災から1年が過ぎましたが、まだまだ多くの問題が未解決です。エネルギー源の多様化など各自が考えることが大事ですね。